　　　　　　クリスマスツリー飾り『まつかさの妖精』

　　　　　　　　　　　　　　　　　　 ★ 講座日 　2017年12月17日(土)　13：30～

　　　　　　　　　　　　　　　　　 ★ 解説　　 尾崎織女(日本玩具博物館学芸員)



★ヨーロッパのクリスマスオーナメントの素材には木の実や松か

さなどがよく使われます。クリスマスは古来、自然の豊かな恵み  
に感謝を捧げる祭礼であり、木の実や松かさなどは、まさに森の  
恵みを象徴するものであったからです。  
★今回は、ドイツやフィンランド、ハンガリーのツリー飾りの中

から素朴で愛らしい「まつかさの妖精」をとりあげます。

●準備するもの……まつかさ（高さ3㎝から5㎝程度）、ウッド  
　　　　　　　ビーズ（12㎜～14㎜）、紙粘土少々、爪楊枝、  
　　　　　　　フェルト布（赤）、毛糸少々、赤い木綿色少々、細いリボン



●道具　　錐あるいは千枚通し、木工用ボンド、ハサミ、縫い針

●作り方

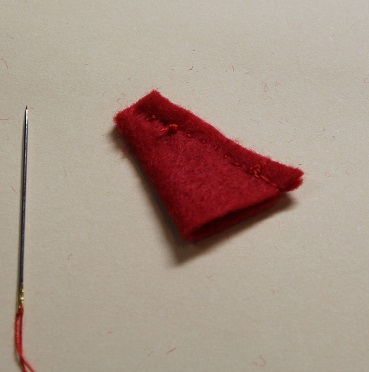
❶　松かさをきれいに洗って乾燥させる。生り口の中心に錐や千枚通しで穴をあけておく。

❷　ウッドビーズの紐遠し穴に紙粘土を詰め、そこに爪楊枝を差し込んで人形の頭と首を作って乾燥させる。

　　（高さ3㎝程度の松かさならウッドビーズは12㎜、5㎝程度なら14㎜）

❸　赤いフェルトで帽子を縫う。







　12㎜のウッドビーズなら、高さ3㎝、上辺2㎝、下辺5㎝のフェルト布、14㎜のウッドビーズなら、  
　高さ3.5㎝、上辺2.5㎝、下辺6.5㎝のフェルト布を用意し、斜めに縫って帽子型を作る。

**❹**高さ1㎝ほど、2～3本の毛糸を束ね、妖精の前髪を作って木工用ボンドで額に貼り、そのあと、赤い

　　フェルト帽の中に木工用ボンドをつけて妖精の頭にかぶらせる。

❺　ウッドビーズ（頭）の下部から出した爪楊枝（首）に木工用  
　　ボンドをつけ、松かさの中心に刺しとめる。



❻　松かさにしっかり頭が着いたら、首元を細いリボンで飾り、  
　　妖精の目を入れる。赤いフェルト帽の先につるし糸をつけて  
　　完成させる。